



ともにほほえむ

# ほほえみ

澤田澄枝さん (89歳) 笑顔が素敵な、明るくてお話好きな女性です。

## 専門職の自覚で

### “介護の質の向上”の担い手に!!

神奈川県介護福祉士会会長 野上 薫子

平成二十三年も早や二月末、春が間近です。お陰様で今年も広々とした新事務所を新年を迎える事が出来ました。これもひとえに本会を支えて下さっている会員の皆様をはじめ、関係者の方々のご支援の賜物と感謝致しております。

本年は介護保険法改正の年であり、財源問題等で「社会保障審議会介護保険部会」の意見書も両論併記が多く、確たる方向性も見えていません。加えて二〇〇七年成立の「改正社会福祉士及び介護福祉士法」の資格取得方法の一元化（全員国家試験を受験、三年以上の実務経験者は六〇〇時間以上の養成課程修了）について、二〇二二年四月の施行を待たずに、「今後の介護人材養成の在り方に関する検討会」報告書では、介護福祉士の資格取得方法を見直

し、三年延期、四五〇時間の実務者研修に変更、介護保険法を一括で国会日程が予定されています。政局の不安定さ、課題が山積の昨今ですが、本年は新事務所を拠点に公益法人としての役割、特に介護福祉サービスの質の向上の為に活動を精力的に推進、従来の各研修事業・研究会活動に加えて、

- 一 ファーストステップ研修・実習指導者研修・サービス提供責任者研修等の「(社)日本介護福祉士の生涯研修制度」に則した介護福祉士のキャリアパス研修
- 二 障害者福祉についての知識理解を深めるための研修
- 三 介護職員に期待される「療養の吸引等の医療的ケア」に関する研修
- 四 尊厳を支え、自立支援を実践する為の介護技術マニユ

アルの検討、作成及び普及啓発活動

五 福祉サービス第三者評価事業の拡大・充実及び障害者グループホーム・ケアホーム第三者評価事業（平成23年度創設、受審事業所に県の受審料助成あり）への参入

六 複数事業所連携事業のコーディネート事業（平成23年度終結の県の委託事業）の一層の周知・拡大、充実

七 地域における介護相談、介護技術普及等地域活動の推進

八 盤石な組織の基盤である会員の拡大

を重点に活動したいと考えています。

年々、本会に対する社会の期待・役割は大きくなります。力を合わせてともどもに躍進の一年にして参りましょう。

会員の皆様、本会の活動へ積極的にご参加ください。





看護士として三年、看護学校での十九年間にわたる学生とのかかわり。社会福祉士の資格を得て、病院の医療福祉コーディネーターとして地域ケア事業を推進された事、平成六年厚生労働省の介護技術専門官、平成十一年埼玉県立保健福祉大学を経て平成十五年より現職の経歴や人生の歩み、ご自身の体験を通してわかりやすくお話をしてくださいました。当日の講演会資料の中からほんの一部をご紹介します。

第三回「介護の日」記念 公開セミナー

「介護(ケア)の可能性」

あなたの大切な人は微笑んでいますか？

平成二十二年十一月七日(日) かながわ県民センター  
講師 神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部  
社会福祉学科教授 澤田 信子氏

大切な人に自由・誇り・安らぎ・ほほえみを

- ・ 今 あなたを必要としている人は 誰ですか
  - ・ その人を大切にしていますか
  - ・ その人は ほほえんでいますか
  - ・ 心安らかに居られる場所がありますか
  - ・ あなたの傍に独りぼっちの人はいませんか
  - ・ あなたも 独りぼっちだと思っていないですか
  - ・ 自分を責めてはいませんか
  - ・ 自分を大切にしていますか
- 大切な人に、できることから始めたい

貯金 柴田トヨ

私ね人から  
やさしさを貰たら  
心に貯金をして  
さびしくなるとは  
それを引き出して  
元気になるから  
あなたも今から  
積んでおきなさい  
年金より  
いよいよ

(飛鳥新社二〇一〇年)

支持的風土・受容的風土

- ①ありがとう (感謝)
- ②ごめんなさい (謝罪)
- ③良かったね (共感)
- ④一緒にやろう (共に生きる)
- ⑤お願い助けて (支え合う)

自然に交わされる風土は利用者や家族、地域、私たち自身の自立していく力を育てる「いじめと闘う」

あなたの夢や希望は？なぜ資格を取るの

優しさにあふれた福祉社会を築きたい。

地域に幸せ(喜び)を運び続けることができるような、そしてまた、他者の人生に関わる責任を自覚し、喜びや哀しみに共感できる専門職でありたい。様々な困難に向き合っている人々と共に在り、苦悩し、人間として生きることを意味を問い続けたい。矛盾に胸を痛め、感動を共有しあいながら、自己省察し、体験から意味を見出すことができるように主体的に学び続けたい。

放送大学からの贈り物「可能性への挑戦」

優しさを伝えるアートとしての技術

- 1 他者への共感性といとおしむ心
- 2 生活習慣や文化を尊重したケア
- 3 主人公として人生の最後まで自分らしく生きることを支援する
- 4 多様な人々の生き様に寄り添い、複雑・高度なニーズに応える
- 5 熟練された技と人間的な豊かさが、最も安全で効率的なケアを創造する
- 6 人間の夢や希望を託し、温かい心を伝え、自立の心を引き出し支える

阿部志郎 「福祉の哲学」

「優しさ」とは憂いに人が関わるという字です。苦しみと痛みを共有によって優しさが生まれます。他者の福祉、人の幸せのための可能性を最後まで追い求める、これが優しさです。非人間化されていく社会の中でできるだけ手間をかける。これが福祉であり、ケア・介護の意味がある。どこまでも相手に手間をかけるからこそ、専門職として光るのである。

「介護（ケア）の可能性」の

講演会に出席して

横浜地区代議員 品川京子

お兄様を医療ミスで亡くされ、看護師の道を選ばれたことから、乳がんの術後四年目の想いや、ご家族でのご両親の看取り等の体験を通して、「今日まで限らない優しさとチャンスを与えてくれた人々、希望や喜び、人生に豊かな彩りを添えてくれた人々」とのエピソードをうかがい、私は介護福祉士としてまだまだ未熟な自分を考えさせられました。

私はご利用者様を訪問して、与えられた時間内にその方に必要な事をさせて頂く事に一生懸命です。「行動する」事に一生懸命です。どれだけ沢山の事が出来たかに一生懸命です。しかし大切な事を見失いがちになっていました。マザーテレサの言葉に、「大切なのは、どれだけ沢山の事をしたかではなく、どれだけ心をこめたかです。」とあります。いつの間にか日々の忙しさに追われ、「どれだけ心をこめたか」を忘れて、「一次の現場で確実に仕事をする事」

に置き換えられていました。私が介護福祉士として救われるのは、ご利用者様から与えられる眼の中の微笑みです。与えているはずの自分が、より大きな「幸せ」をご利用者様から与えられている事を感じる瞬間です。その時には「この仕事をさせて頂いて良かった」と思います。私達のする仕事は一滴のしずくに過ぎない。でも、その一滴のしずくが集まって海になる。人の可能性、知識を得ることへの関心、心のこもった介護への関心を持つていたいと思います。セミナーを受講して、大切な人と共に微笑み「ケアの可能性」を信じていこうと思えました。

『いい日、いい日。』

11月11日は介護の日。』

「介護の日」ひろめ隊

出動!!

神奈川県介護福祉士会は、本年から啓発地を横浜だけでなく各地で広めることも必要と考え県西の小田原でも開催しました。会員約三十名で横浜駅西口と小田原駅に別れ『介護の日』を広く知っていただくために、神奈川県社会福

祉協議会・神奈川県介護福祉士会・神奈川県主催のイベントのちらしと『11月11日は介護の日』（社）



日本介護福祉士会と印字されたクリアファイル（東洋羽毛寄贈）を配布しました。通りがかりの人に差し出すだけではなかなか受け取ってもらえず、熱い眼差しで話しかけると受け取ってくれました。

『介護の日って何？』『今、私は介護しているのよ』と言う人もいて、介護には関心があることがわかりました。

今年も神奈川県介護福祉士のピンクのぼりを新調し、ユニホーム（ジャンパー）を着て、目立ちつつも、さわやかな印象を持っていただけたのではないかと思います。両所共、一時間程で約五百部を配布することが出来ました。

誰もが「介護する」「介護される」と言うことをいざれ体験しま



す。多くの方々に『介護』を身近なものとして関心を持っていただきたいと願っています。

介護に対する理解や認識を深め、介護を受ける方及びその家族、介護従事者等を支援し、住み慣れた地域で共に支えあえるように、これからも毎年各地で開催し啓発活動に努めていきたいと思います。

(副会長 炭竈美枝)



第17回(社)日本介護福祉会  
全国大会インみやざき

「福祉と医療の連携  
私達は何ができて、  
何ができないのか」

く介護福祉士の現状を

どげんせんといかん！

平成22年12月10日～11日  
於 ワールドコンベンション  
センター サミット

本年の全国大会は神奈川県からは遠い、九州は宮崎県で行われた。過去には「サミット」の会場でもあった由緒あるホテルでの開催で、参加総数一五〇〇名、神奈川県からは三十余名の参加があり、宮崎県の介護福祉士会も大変な力の入れようであった。

開催県である宮崎県介護福祉士会、前田薫会長による歓迎挨拶に始まり、厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室の本名靖氏、宮崎県知事の東国原英夫氏、宮崎市長の戸敷正氏等の挨拶があり、特に昨年の宮崎県における「口蹄疫」被害時には、介護福祉士会の協力があったことに言及された。本名氏の基調講演後、記念講演 諏訪中央病院名誉院長 鎌

田實氏(「がんばらない」けど「あきらめない」)く鎌田實の幸せ介護(、特別講演 詩人・児童文学作家の藤川幸之助氏(「支える側が支えられるとき」)く認知症の母が教えてくれたこと)から、心の糧になる盛り沢山のお話を聞く事が出来た。特に藤川先生のお話には詩の朗読の効果もあり、感動から涙目になる方も多かった。懇親会では、宮崎県の民謡などで盛り上がる中、鎌田先生と藤川先生にお願いして、両先生とそれぞれ、感動を口にしながらか記念写真を撮らせて頂いた。



二日目は第一分科会「高齢者施設・認知症における福祉と医療の連携について」第二分科会「障がい者施設における福祉と医療の連

携について」第三分科会「在宅(高齢者・認知症・障がい者)における福祉と医療の連携について」の各分科会では活発な意見の交換もあり有意義な研修会でした。



次年度の開催県「青森県介護福祉士会」の招致挨拶もにぎやかに二日間の大会が無事終了。今大会では、第三分科会を聴講したが、座長のいしかわ内科医院 院長石川智信氏から「分科会の発表の仕方について、時間を守ること、内容を精査すること」などの注意があった。医師会などと比べての発言と思われるが、介護福祉士会も発表内容の向上に力を入れるべきであろう。

鎌田先生の言葉「人は生きていくだけで存在する」、藤川先生の「扉」等の詩をお土産に空路帰宅した。(副会長 平野浩子)

扉

藤川幸之助

認知症の母を  
老人ホームに入れた。

認知症の老人たちの中で  
静かに座って私を見つめる母が  
涙の向こう側にぼんやり見え  
た。

私が帰ろうとすると  
何も分かるはずもない母が  
私の手をぎゅつとつかんだ。  
そしてどこまでもどこまでも  
私の後を付いてきた。

私がホームから帰ってしまうと  
私が出て行った重い扉の前に  
母はぴたりとくっついて  
ずっとその扉を見つめているん  
だと聞いた

それでも  
母を老人ホームに入れたまま  
私は帰る  
母にとっては重い重い扉を  
私はひよいと開けて  
また今日も帰る

『満月の夜、母を施設に置いて』(中央法規)

## ♪先輩紹介♪

熱い想いを持って地域で活躍する  
先輩会員を紹介する新企画！！

## 第1回 小野寺美代子さん（相模原地区）

記念すべき第1回は、本会の誕生にご尽力いただいた会員番号1番、本会創設時の副会長の小野寺美代子さん（写真左）です。

小野寺さんの介護福祉士としてのキャリアは、昭和55年に就職した中心荘に始まる。仕事と子育てとに忙しい中、昭和63年の第1回介護福祉士国家試験に合格し、平成2年に道志会老人ホームに転職。介護支援専門員も第1回試験で見事合格し、東林間シニアクラブ等々でケアマネージャーという新たな領域に挑戦。そして、ついに平成18年10月、居宅介護支援事業所を自らが経営者として開設し、平成22年6月には小規模デイサービス『ほろわ』もオープンさせた。『ほろわ』とは、『保呂羽』と書く。小野寺さんのご主人の故郷にある保呂羽山（岩手県）に由来する。保呂羽山頂上よりの眺望は、北上高地の独立峯「室根山」と対峙し、絶景だという。



ケアマネは、培った知識や経験を活かし「自分の裁量で仕事ができるから楽しい」。ひとりで始めたケアマネ事業所に、小野寺さんを慕う仲間がひとり、

ふたりと集まり、5人にまで増えた。現在は、自宅の1階を改築して始めたデイサービスの運営に情熱を注ぐ。小野寺さんのこだわりは、“食事”。新鮮な地の野菜や安全で美味しい食材を、小野寺さん自らが買出し、調理し、提供する。食欲がなく、寝たきりでひどい褥瘡のあった方が、『ほろわ』の心のこもった手作りの食事に出逢い、食べる喜びを取り戻した。褥瘡もほとんど治り、今ではお代わりをするまでになった。「食事って本当に大事よ」と、淡々と穏やかに語る小野寺さんに力が入る。開所から半年、徐々に軌道にのってきた。昼間だけでは支えきれないと、介護保険事業のデイに加え自費宿泊事業も行う。また、息子さんが管理者となり、小野寺さんをがっちり支えている。

「経営者としての苦勞も多いのでは？」の質問に、「色々あるけど、とにかく面白い！今はこれが一番。誠意を持って接すれば接するだけ、相手も返してくれる。この絆を大切にしたい。次は訪問介護事業所を、いつかは託老所もやってみたい」と夢を語る。「無理をせず自然体で、月に1度の富士山麓ウォークも楽しみのひとつ」と楽しそう。

最後に後輩介護福祉士に一言をお願いした。「継続は花。ただ勤めるのではなく向上心と創意工夫で勉強を続ければ、いつかは花が咲く。応援してくれる味方がいたら、みなさんも自分で事業を立ち上げてみたら？」私も小規模デイの管理者として奮闘の毎日。小野寺さんの静かな情熱と質の高い介護の実践に、沢山の勇気をいただきました。小野寺さん、ありがとうございました。

（取材 コッシュ石井 美千代）

## 開催予告！ 平成23年度一般社団法人神奈川県介護福祉士会 定時総会・記念講演会

平成23年5月21日（土）記念講演会 13:00～15:00 定時総会 15:10～16:50（ウイリング横浜）

記念講演会 内容：「障害者福祉について」（仮題）

講師：藤村 和静氏 （福）常成福祉会常務理事 丹沢自律生活センター センター長  
かながわ福祉サービス第三者評価推進機構運営委員会委員長

## 委員会・部会の活動状況

## 介護技術研修会

## 「潜在機能を適切に

## 引き出す介護」

く理学療法士から学ぶ、介護技術く

① 9月26日(日)

「疾患や障害の特徴」

② 11月20日(土)

「利用者の力を引き出す

適切な介助方法」

今年度は理学療法士の田中義行先生(「潜在力をひき出す介助」の著者)による介護技術研修を開催しました。受講生からは「寝返り・起き上がり・立ち上がり・移乗について根拠を含めての説明でわかりやすく良かったです。」「百人いれば百通りの介護。たくさんの方から覚えるのではなく、基本と根拠を説明できるように努力する。だからこうなるが理解できました。」「実習体験、介助する人、される人、両方経験することができ、良かったです。」「などの感想をいただきました。田中先生は「人間本来の自然な動きを引き出す」と言う考え方がそのまま障害者や高齢者にあ

てはめられるだろうか?』と言う疑問を投げかけられました。筋肉の仕組みや拘縮、反回旋の立ち直り反応、連合反応、非対称性緊張性類反射などの専門的なことを分かりやすく、体験を通して学びました。また、動作(寝返り・起き上がり・立ち上がり等)のどこを見れば介助のポイントが分かるのかを丁寧に体験して根拠を学びました。根拠に基づいた介護技術の向上を目指していきましょう。

(担当理事 炭電美枝)

## 入所施設職員部会

第一回 9月26日(日)14~16時

「施設内で起きる転倒骨折をどのようにマネジメントしているか」く具体的な転倒骨折に注目して、事例から学ぶく

利用者のQOLを著しく低下させる(生活に制限をもたらす)転倒骨折に対して、どれだけ予防に手を打とうとしているのか?という点において、私たち介護福祉士は専門性を問われるところだと思います。ここでの転倒予防策は、当然、「拘束」ではありません。どんな工夫をされるとご利用者が尊

厳を守りつつ、笑顔で生活できるのか。転倒予防ができるのか。高リスクのご利用者が圧倒的に多いのが現状です。そんな状況の中で、対応策としてよく聞くのが、「見守りの強化」「頻繁な声かけ」です。



それは予防策といえるのか?という課題があります。そもそも具

も起きてしまった事故から、どれだけのこと学んでいるのか?ということも問われるところです。しっかりと事故の現状把握をして、原因を掘り下げる、そして介護福祉士として何をすべきだったのか振り返るスキル、予測義務、プランでの約束事など。参加者による事例発表を交えながら、転倒骨折について確認しあいました。まだまだ奥が深い問題です。これからも、極めていきたいと思えます。研究すること盛りだくさんです。

(担当理事 浦野直子)

## 訪問介護員部会

第二回 10月17日(日)10~12時

「利用者の冷蔵庫を空けた瞬間」何を調理すれば良いかしら?」と支援活動に入った時悩んだ経験はありませんか?

く利用者に喜んで頂くために皆さんで考え、楽しく調理しましょう!く

そこで、嬉しいヒントいっぱい。の研修会を開催致しました。アドバイザーは栄養士の田村ひろ子先生です。お話の中で、く食事は栄養の源であるだけでなく楽しむのもあるの、その人らしく食事が出るように食器やテーブルクロスなど楽しい雰囲気も大切であり楽しく食事して頂いて!とのコメントがありました。



当日は、二時間内で ①講義 ②実習 ③発表 ④試食と時間設定されており、参加した十五名の受講者は田村先生のアドバイスを受け

ながら楽しんで腕を振るい試食をし合ってお互いに情報交換をしていました。

〔田村先生のワンポイントアドバイス〕  
メニューに困った時にはお皿を三品イメージする。主食(うどん・ご飯・パン・スパゲッティ)、主菜(肉・魚その他)、副菜(野菜など)と順に決めていくとイメージが出来るってくるそうです。

(担当理事 中嶋春子)

### 生活支援部会

〓秋の三浦半島散策で

リフレッシュ!〓

散策当日の十月十七日(日)は、まあまあの天気でした。JR横須賀駅と京急横須賀中央駅の二か所を待ち合わせ場所とし、同じ路線バスに各駅から乗車して、観音崎終点まで約三十分。参加者八名リュックを背に集合し自己紹介。東京湾沿いの遊歩道に出て観音崎灯台への登り坂をのんびり歩いてアツという間に灯台に到着。入場券発売のおばさまに記念写真の撮影までもお願いをしたりして、三百六十度の眺望に気分も「晴れ



ばれ」でした。海上の大小様々な船の絶えることのない往来を眺め、おしゃべりしながら散策を楽しみました。ところで、この観音崎一带には数か所に砲台跡があります。NHK放映の「坂の上の雲」に登場する榴弾砲の実物大模型を見て、観音崎自然博物館近くのレストランへ。各人が思い思いのちよっぴりグレードアップした昼食を楽しみました。満ち足りた気分で遊歩道に戻り、帰りは観音崎航路の定期便に乗船。三浦半島の海側からの名所旧跡の説明を聞きながら約三十分のクルージングを楽しみました。日露戦争で活躍した記念艦「三笠」近くで下船後、横須賀港沿いのヴェルニー公園を散策し、JR横須賀駅で解散。総勢八名の参加者でしたが和気あいあいの楽しい一日でした。

(担当理事 三ヶ島靖子)

### ケアマネジメント研究会

担当理事 浦野直子

平成二十年八月に発足した「施設のケアマネジメント研究会」活動を始めて二年半。施設入所者対象の「ケアマネジメント」はどうあるべきか、どうあつてほしいかという視点から議論してきました。施設における現状はどうかというところ、介護保険施設の運営基準にある「施設サービス計画書」に関する内容も十分に理解されていないかもしれないし、また、利用者本位と言いつつながら、会話が不能になってしまっている利用者のごことをみて、どのようにプランを作成しようとしているのか、目に映る姿だけになっていないか等、課題が沢山出てきました。やはり、現実には「身体の障害部分」「健康部分」にだけ注目したプランが多く、「生活に密着した」見方は乏しい。私達は日本介護福祉士会が構築した「生活7領域から考える自立支援アセスメント・ケアプラン作成マニュアル」をベースに「生活」重視のアセスメントシートの内容を議論してきました。発足か

ら二年経過し、今はやっと出来上がったアセスメントシートを実際に研究会メンバーの事業所で使って、検証中です。

### 介護技術研究会

担当理事 齋藤美貴

日常的な介護を行う中で、介護者が腰痛を起こしたり、介護現場での様々な事例をなんとかしたいと、多種多様な課題が起きております。サービスの質の向上や、改善についての意見があるものの、移乗・移動介護は相変わらず、「持ち上げ介護しか考えられない」事業所が多くみられます。

そのような現状評価から、本年度の研究会では、東海大学の下山先生にキネステイクを六回シリーズで学びました。「人の動きや動く感覚を磨き、生活力を向上させる介護とは何か、根拠に基づいた思考方法を習得する」等を目標に、研究会を行つていきます。多角的に考えることから、「神奈川県介護福祉士会が作成した介護技術の基礎」がよく理解でき、現場への応用ができるようになるのと参加者から感想がありました。

社団法人日本介護福祉士会  
会員の皆様の為の専用福利厚生制度

## 安心三重奏

今「専門職業人」として個人責任が問われる時代！！

### [安心のための補償]

- ①業務上の管理・指導ミスなどによる利用者や第三者への賠償責任補償
- ②あなたご自身がけがを被った際の入院・通院補償
- ③あなたが病気やけがで働けない間の所得補償

### [制度の特徴]

- ・(社)日本介護福祉士会独自の福利厚生制度です。
- ・団体割引を適用している為保険料が割安です。
- ・加入手続きは簡単。保険料はご指定口座からの引き落としです。

### [月々の保険料]

A 型 1,000円 B 型 2,000円 C 型 3,000円

※平成22年10月1日以降保険始期の契約分より下記の点が変更になります。月払い保険料は変更ありません。

変更前	死亡・後遺障害	変更後	死亡後遺障害
A 型	17万円	A 型	17万円
B 型	120万円	B 型	90万円
C 型	210万円	C 型	130万円

お問合せ先

㈱損害保険ジャパン 医療・福祉開発部 第2課  
(03-3354-8781)

# 新年度から ホームページが リニューアルします!!!

アクセス数が多い  
研修情報を  
トップページに配置。

研修会等の様子もUPし、  
会の活動を多くの人に  
知ってもらえるような、  
サイト作りを目指します。

神奈川県介護福祉士会

検索 

<http://www.kanagawa-accw.org/>

## 介護福祉士有資格者の皆様へ 会員募集！！

- 本会は**  
専門職業人としての社会的地位及び資質の向上と県民の介護福祉の増進に努めます。
- 会員になると**  
・各種研修会に会員価格で優先的に受講が可能です。介護技術や福祉の最新情報を提供します。  
・(社)日本介護福祉士会生涯研修制度の認証が受けられます。  
・福利厚生各種特典があります。
- お申込みは** 事務局 電話 045-323-1085

## 編集後記

ほほえみの編集に  
携わり六年。その間

多くの方と関わらせていただき  
ました。忙しい中一生懸命原稿を書  
いてくれた方、会員の皆様に喜ん  
でいただける機関紙をお届したい  
と奮闘する理事へ会報「ほほえみ  
は、たくさんの人の努力と協力で  
出来ています。

皆さま、ぜひ、ご愛読いただけま  
す様お願い致します。(事務局星)

広報委員会では読む方のニーズ  
に答えた機関紙・新たな情報源と  
なるホームページを目指し今後も  
精進していきたく思っています。  
感謝・意見等なんでもドシド  
シお寄せください。

## ほほえみ 三十五号

発行 一般社団法人

神奈川県介護福祉士会

会長 野上 薫子

横浜市西区楠町九番地七

TAKビル三階

電話 045(323)1085

FAX 045(317)5930

E-mail: info@kanagawa-accw.org

印刷 有限会社 金港堂

電話 045(322)0234